IBM Unica Interact
バージョン 8 リリース 6
2012 年 5 月 25 日

リリース情報

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 29 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Interact バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Interact
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 2004, 2012.

目次

第 1 章 システム要件と互換性 1

第 2 章 バージョン 8.6.0 の新機能と変更 3
IBM Unica 製品の言語サポート 6

第 3 章 修正された問題 7

第 4 章 既知の問題 9

第 5 章 既知の制約 13

第 6 章 以前のリリースの新機能 17
バージョン 8.5.0 の新機能と変更 17
バージョン 8.2.0 の新機能と変更 19

第 7 章 IBM Unica Interact Reports Package について 25

IBM Unica 技術サポートへの連絡 . . . 27

特記事項 29
商標 31

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

第 1 章 システム要件と互換性

IBM® Unica Interact は、IBM Unica Marketing の製品スイートの一部として動作します。

Interact バージョン 7.5.1 以降から Interact 8.6.0 にアップグレードできます。詳しくは、「*IBM Unica Interact インストール・ガイド*」を参照してください。

システム要件と互換性に関する完全な情報の参照先

この製品と互換性がある IBM Unica 製品のバージョンのリストについては、「*IBM Unica 8.6.0 Product Compatibility Matrix* 」、および IBM Unica 製品の技術サポートの Web サイト (http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm) の「資料」の下に掲載されている、その他の製品の互換性に関する資料を参照してください。

この製品のサード・パーティーの要件のリストについては、Interact にログインして「**ヘルプ**」>「**製品ドキュメント**」から利用できるほか、IBM Unica 製品の技術サポートの Web サイト (http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm) からアクセスできる*IBM Unica Enterprise 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件* を参照してください。

バージョン 8.6.0 の主要なサード・パーティー製ソフトウェアのサポートの変更

Interact バージョン 8.6.0 では、次のサード・パーティー製ソフトウェアの新しいバージョンに対するサポートが追加されました。

オペレーティング・システム (64 ビットのみ)

- RHEL AP 5.6、5.7、6.1

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

第 2 章 バージョン 8.6.0 の新機能と変更

製品の推奨に対する Interact の IBM Coremetrics® Intelligent Offer との統合

Interact は、カスタマイズを提供するための高度なアプローチと IBM Coremetrics Intelligent Offer のスケーラブルな製品の推奨ソリューションを組み合わせ、顧客インタラクションで最適なオファーと製品情報を提供できるようになりました。

現在 Web ページをカスタマイズして、オファーを訪問者に提示するよう最初に Interact を呼び出し、それから API 呼び出しを使用して製品カテゴリー ID を Intelligent Offer に送信し、そのオファーに対する最も一般的な製品の推奨を取得します。例えば、Interact が特定の訪問者に対してベスト・オファー (すべての電気製品を 10% オフ) を提供するページを設定する一方で、Intelligent Offer はそのオファーに対して最適な製品の推奨 (特定のカテゴリー ID に対して最も人気のある家庭用電気製品) を提供します。

追加情報については、「*IBM Unica Interact管理者ガイド*」、および */<Interact_home>/samples/IntelligentOfferIntegration* にインストールされている、デモおよび自分の Web ページの開始点として利用できるサンプル・アプリケーションを参照してください。

(ENH11607)

新しい配置の管理とバージョン管理

インタラクティブ・チャネルでは、配置情報は別の「配置」タブに移動しました。「配置」タブは、配置の管理のために、次の機能を含む拡張されたユーザー・インターフェースを提供します。

- **アクティブな配置を表示して配置解除します。**「アクティブな配置」ビューによって、現在の配置の即座の情報を提供し、必要に応じて選択した配置を配置解除できます。
- **保留中の変更を表示します。**「保留中の変更」ビューは、配置のマークが付けられているがまだ配置されていない変更を表示でき、必要に応じて対象となるサーバー・グループに変更を配置したり、グローバル設定のみを配置したりできます。
- **以前の配置をロールバックします。**「配置履歴」セクションでは、以前のバージョンの配置を選択して再配置したり、以前のコンポーネント (「フローチャート」タブと「方法」タブ) を再読み込みして変更したりできます。
- **以前の設計時間コンポーネントを再読み込みして変更します。**「配置」タブを使用して、以前の配置からインタラクティブ・チャネル、フローチャート、およびインタラクティブな方法を再読み込みし、表示または変更してから再配置できます。
- **ビューをカスタマイズします。**配置履歴リストをフィルターして、特定のサーバー・グループへの配置以外をすべてフィルターで除外したり、完了した配置を除

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

外するなど、必要な情報のみを表示します。また、特定の列や、列の複数の組み合わせのリストをソートして、完全に希望どおりに配置情報を表示できます。

(ENH11608)

外部の学習の拡張

これまでのリリースでは、Interactの作成済みの学習は、カスタムの学習要件と一緒に使用できませんでした。現在、Interact の作成済みの学習の実装の選択機能に、API 呼び出しの新しいセットを経由してアクセスして、外部の学習アルゴリズムで組み込みの学習方法を使用できるようになりました。追加の技術的な詳細については、/<*Interact_home*>/docs/learningOptimizerJavaDocs にインストールされている Javadoc を参照してください。(ENH11609)

プロファイル・データ・サービス: EXTERNALCALLOUT を経由して取得される階層プロファイル・データ

現在、EXTERNALCALLOUT API 機能を使用して、階層プロファイル・データを Interact ランタイム・セッションにインポートできるようになりました。これにより、Web サービスなどさまざまなソースからデータをプルできます。(ENH11610)

「インタラクション方法」タブの拡張

「インタラクション方法」タブが、機能を追加し使いやすさを向上するために再設計されました。以下のような改良点があります。

- **新しいビュー・オプション。**リストのフィルタリング、およびセグメントやゾーンの複数選択によって、多数のルール、オファー、ゾーン、セグメントなどを非常に簡単に管理できるようになりました。
- **多数の処理ルールに同時にオプションを適用します。**リストの複数のセグメントやゾーンを選択して、同じセットの詳細オプション、学習モデルのカスタマイズ、およびパラメーター化されたオファー属性を、選択された処理ルールすべてに同時に割り当てることができます。
- **多数の処理ルールを同時に有効化、無効化、削除します。**同じ選択機能によって、複数の処理ルールを単一ステップで有効化、無効化、および削除できます。
- **ドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェース。**ドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェースが拡張され、セグメント、オファーの他にゾーンをルールに追加できるようになりました。また、複数のアイテムを同時に選択して、ルールのリストにドラッグすることもできます。
- 新しい表示: セグメントごとやゾーンごと、および追加された情報やフィルタリングによって、処理ルールを表示できるようになりました。
- 「インタラクション方法のコピー」アイコンを使用して、インタラクション方法を別のキャンペーンにコピーできる機能が追加されました。
- 不要な変更を防ぐために、自動保存機能が削除されました。現時点では、「方法」タブで変更を明示的に保存するか、キャンセルして不要な変更を破棄する必要があります。

(ENH11611)

パラメーター化されたオファーの拡張

オファーのパラメーター化を使用して、個人とセッションに固有の属性を使用し、一般のオファーを個人用にカスタマイズできます。オファーがセグメントとゾーンにマップされた後で、「方法」タブでパラメーター化されたオファーを処理ルールの一部として構成できるようになりました。パラメーター化されたオファーの値は、処理ルールに固有です。

新しい「方法」タブの機能を使用すると、複数の処理ルールを選択して、共通パラメーターを同時に変更できます。

また、グローバル・オファー、ホワイト・リスト、および `OffersBySQL` のテーブルを使用して、パラメーター化された値を設定することもできます。

(ENH11612)

レポート作成の拡張

このリリースでは、オプションの Interact Reports Pack を使用している場合は、次のレポートの拡張が提供されます。

- **オファー別のゾーン実績レポート** このレポートは、「**分析**」>「**キャンペーン分析**」を選択して、「**Interact レポート**」をクリックし、「**ゾーン実績**」をクリックすると利用でき、オファーがゾーンごとにどのように実行されているかを確認できます。
- **セル・パフォーマンス・レポート・フィルター**。Interact のセル・パフォーマンス・レポートが拡張され、選択したアイテムにのみ実行することが可能になり、インタラクティブ方法のレスポンス率の向上に役立ちます。この拡張によって、特定のセル・コードのデータをフィルタリングでき、元のレポートより絞り込むことができます。

(ENH11254、ENH11253)

安全な RMI プロトコル

現在、Interact は JMX の統計情報を取得するための方法を、RMI と JMXMP の 2 種類提供しています (Marketing Platform の構成から構成可能)。これまでは、JMXMP しか安全なアクセスを有効化できませんでした (JMX の統計情報を取得するには、Marketing Platform のユーザー名とパスワードが必要です)。このリリースでは、そのレベルのセキュリティーが、RMI に対してもサポートされています。

Interact の「監視」ページの Marketing Platform の構成設定で、`protocol` を `RMI` に、`enableSecurity` を `TRUE` に設定することによって、安全な RMI を構成できます。

(ENH11488)

IBM Unica 製品の言語サポート

IBM Unica の今回のリリースでは、ほとんどすべての製品資料と製品のユーザー・インターフェースが、次の言語で利用できるようになりました。

- ブラジル・ポルトガル語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- 中国語 (簡体字)、GB18030 の要件への準拠を含む
- スペイン語

IBM Unica 製品内でロケールの設定を行うための情報は、「*IBM Unica Marketing Platform管理者ガイド* 」を参照してください。

注: 「**ヘルプ**」メニューを使用して、オンライン・ヘルプやその他の資料を開くときに、ロケール設定を利用して、一致する言語が利用できる場合はその言語で自動的に資料が表示されます。

第 3 章 修正された問題

このセクションでは、Interact 8.6.0 で修正された問題をリストします。

問題 ID	説明
DEF045215	設計環境の GUI を移動しているときに、DB2® の警告がログに記録されていました。この問題は解決済みです。
DEF048645	サーバー・グループの RT サーバーのいずれかがダウンしているときのインタラクティブ・チャネルの配置で、配置は正常に完了したと表示されているが、Web アプリケーション・サーバーのコンソールではエラーがスローされていました。この問題は解決済みです。
DEF048980	インタラクティブ・チャネルの「待機中の変更 (Change Waiting)」リストで、運用のために配置を待機している変更がキャンセル、またはマークが削除された場合に、動作に整合性がありませんでした。この問題は解決済みです。
DEF051567	Interact7.5.3 からのアップグレード後に、クロス・セッション・レスポンスが有効になっている場合、Interact が始動に失敗します。この問題は解決済みで、これまで提供されていた回避策は必要なくなりました。
DEF052122、DEF052021	Interact7.5.3 から バージョン 8.x にアップグレードした後で、`aci_upgrade.log` ファイルにテーブルの制約に関する複数の警告が表示されました。これらの警告は発生しなくなりました。
DEF052129	32 ビットの JDK 1.5 を使用する AIX® で、Interact 8.0 から 8.x.0 にアップグレードした場合、アップグレード・プロセスで Interact と Interact の Reports Pack のバックアップを完了することができませんでした。この問題は解決済みです。
DEF052178	非運用サーバー・グループへの配置が、Interact の配置履歴レポートに反映されませんでした。「配置」タブと「配置履歴を表示」リンクの下に表示される配置履歴が、正しく表示されるようになりました。
DEF052216	Interact 7.5.3 から 8.x.0 の アップグレードで、最初のインタラクティブ・チャネルが配置された後に `getOffers` API を呼び出すと、NULL ポインター例外が生成されます。この問題は解決済みです。
DEF052780	Optimize のインストールの前に、Interact が既にインストールされている場合は、Optimize のインストーラーが Interact のサブコンポーネントのバージョンを上書きしていました。この問題は解決済みです。
DEF054132	Interact のインストーラーを無人 (サイレント) モードで実行した場合に、設計時コンポーネントがインストールされませんでした。現在では、修正されています。
DEF054848	8.2 以上にアップグレードすると、ローダーのスクリプト・ファイル `oraload.sh` がアップグレード後に更新され、アップグレード以前に行った設定が上書きされるため、ローダーが動作しなくなりました。この問題は解決済みです。
DEF054993	インタラクティブ・フローチャートの「テスト実行」が、ユーザー変数のタイプが「整数」のときに失敗していました。「整数」のタイプのユーザー変数が使用される場合、インタラクティブ・フローチャートのテスト実行がエラー 21100 で失敗しました。この問題は解決済みです。テスト実行は、「整数」タイプのユーザー変数で正常に行われます。
DEF057828	Interact と Campaignのオーディエンス・レベルが非 ASCII として構成されている (つまり、指定されたロケールの外字を使用している) 場合、エラー「`ORA-00001: ユニーク制約 (RBGB_UC.CTREATMENT_PK) に違反しました (ORA-00001: unique constraint (RBGB_UC.CTREATMENT_PK) violated)`」が発生していました。この問題は発生しなくなりました。
DEF057822、DEF060580	オーディエンス・レベルで非 ASCII (拡張言語) 文字を使用している場合に、コンタクト履歴とレスポンス履歴のローダーが失敗していました。また、インタラクティブ・チャネルのサマリー・ページのマップされたオファー・テーブルに、非 ASCII のオーディエンスの例外が表示されました。これらの問題は、非 ASCII データの処理の全般的な改善に伴って解決されました。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

問題 ID	説明
DEF059806	Interact が DB2 のローダーを使用して、コンタクト・データとレスポンス・データをコンタクト履歴/レスポンス履歴ステージング・テーブルに挿入するときに、ディレクトリーを削除できなかったことを示す例外 (`java.io.IOException: Problem deleting directory`) がログに記録されます。コンタクト履歴とレスポンス履歴のデータは、このエラーに関係なく、予想されたとおりに正常に挿入されています。ログに記録されたエラーに示されているディレクトリーを削除する必要はありません。ただし、このようなディレクトリーは領域を占有し、自動的に削除されないため、必要なくなった場合には手動で削除することをお勧めします。
DEF060192	学習集計サービスを実行している場合、その目的は `uaci_offerstatstx` からデータを取得し、`uaci_offerstats` テーブルにマージすることです。Oracle をデータベースとして使用している場合に、集計が効率的に実行されず、必要以上に時間がかかっていました。このパフォーマンスは、改善されています。
DEF047872	Interact の設計時間が、ETL を有効にしたときにマップされなかった各オーディエンス・レベルのエラーを表示していました。このエラーは警告になり、オーディエンス・レベルが適切にマップされていないことを示す情報が表示されます。
DEF048646	これまでは、配置用としてマーキングされているフローチャートを削除しようとすると、データベース・エラーが発生していました。現在、フローチャートを削除できない理由をユーザーに説明する通知アラートが表示されます。
DEF048768	ユーザーがオーディエンスのプロファイル・テーブルのマッピングを解除するとき、分かりにくいエラー・メッセージが表示されていました。この問題について、テーブルが配置されたフローチャートにマップされ、配置解除してからマッピングを解除する必要があることを示す正確なメッセージが表示されるようになりました。
DEF051664	これまでは、ユーザーがインストール・ディレクトリーと同じバックアップ・ディレクトリーを選択した場合に、利用可能なディスク領域が十分でないことを示すメッセージを表示して、Interact のアップグレードが失敗していました。現在このような選択はできなくなったため、エラーが発生しなくなりました。
DEF061472	以前のリリースでは、`startSession` API 呼び出しに渡された `audienceID` がプロファイル・テーブルで見つからなかった場合に、システムがフル・スタック・トレースのある警告をログに記録していました。この問題は解決され、スタック・トレースのないシンプルな警告がログに記録されるようになりました。
DEF061817	InteractionPoint プロセス・ボックスを含むフローチャートをテスト実行しようとしたときに、「`エラー 13200 IntFlowchartTest Run: 入力ストリングの未指定のエラー (Error 13200 IntFlowchartTest Run: Unspecified error For input string):`」というエラー・メッセージが表示されることがありました。このエラーは、特定のカスタム・マクロに関連しており、発生しなくなりました。
DEF061972	データベース・テーブルに末尾のスペースがあるフィールドが含まれているときに、これらのフィールドのコンテンツを評価する場合に、フローチャート・プロセスが末尾の空白文字を対象にしていました。現在、Campaign と同様に、末尾の空白文字は無視されるようになりました。
DEF062147	制約があるが印象の制限がないインタラクティブ・チャネルの定義に関連するある状況で `getOffers` API 呼び出しを使用すると、`java.lang.NullPointerException` エラーで失敗していました。この問題は修正されました。

第 4 章 既知の問題

このセクションでは、Interact 8.6.0 の既知の問題をリストします。

問題点	問題 ID	説明
インタラクティブ・フローチャートのテスト実行を停止できない	該当なし	インタラクティブ・フローチャートのテスト実行を停止する、または一時停止することができません。テスト実行は、データのサブセット (例: 数百行) で実行するよう設計されています。インタラクション・プロセスで、テスト実行のサイズを構成できます。詳しくは、「*IBM Unica Interactユーザー・ガイド*」を参照してください。
組み込み学習を使用している場合、Interactはすべてのインタラクティブ・チャネルで最新の学習属性を使用する	該当なし	学習属性は、すべてのインタラクティブ・チャネル間で定義されます。複数のインタラクティブ・チャネルに対して単一の Interact のランタイムがある場合、Interact ランタイムは最も新しく配置された学習属性を使用します。例えば、コール・センターのシナリオが学習属性 A、B、および C をトラッキングし、Web サイトのシナリオが学習属性 C、D、および E をトラッキングするとします。Web サイトのインタラクティブ・チャネルを更新する場合に、学習属性 C への変更は、コール・センターと Web サイトの両方に影響を与えます。
テスト実行の結果テーブルが Interact のテスト実行テーブルからドロップされない	該当なし	インタラクティブ・フローチャートのテスト実行を行う場合、Interact はインタラクティブ・フローチャートごとにテスト実行テーブルに 4 つのテーブルを作成します。これらのテーブルは、インタラクティブ・フローチャートを削除するときに削除されません。
オーディエンス・レベルを削除するときに、コンタクト履歴とレスポンス履歴のユーティリティーが失敗することがある	該当なし	コンタクト履歴とレスポンス履歴のモジュールは、`UACI_CHRHAudMap` にリストされるすべてのオーディエンス・レベルのデータを転送しようとします。オーディエンス・レベルを削除するときは、`UACI_CHRHAudMap` テーブルから関連するすべてのエントリーを削除する必要があります。そうしないと、コンタクト履歴とレスポンス履歴のユーティリティーが失敗します。
データベース書き込みユーティリティーを使用するときに、DB2 が間違ったエラーを返すことがある	該当なし	書き込みが警告しかない状態で完了している場合に、データベース書き込みユーティリティーがエラーを返すことがあります。例えば、列の値が列の幅を超えている場合は、書き込む前に切り捨てられます。このような場合は、データベース書き込みユーティリティーのログ・ファイルをチェックして、レコードが挿入されていないことを確認してからディレクトリーの名前を変更して再実行してください。 `db2loader.xxx.log` ファイルの、特に `Number of rows committed = xxx` という行を確認することで、書き込まれる行数を判断できます。
イベントの名前を変更したときに、チャネル・イベント・サマリー・レポートが正しくないデータを表示することがある	該当なし	イベントの名前を変更すると、新しい名前がレポートに正しく表示されないことがあります。
Interact レポートのオンライン・ヘルプが利用できない	DEF052233、DEF063147	「キャンペーン分析」ページまたは「レポート」ページから「**ヘルプ**」をクリックしたときに、Interact のどのレポートのヘルプも表示されません。ヘルプ・ウィンドウが表示されますが、代わりに Campaign のレポート情報が記載されています。 回避策としては、ヘルプ・ウィンドウを使用して、情報を表示するレポートを名前で検索します。
「決定」プロセス・ボックスの非 ASCII プロファイルがエラー 11300 をスローする	DEF054887	非 ASCII のフィールド名を持つオブジェクトは、Interact 8.2.0 またはそれ以降に移行したときに、「決定」プロセスにプロファイルできません。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

問題点	問題 ID	説明
非 ASCII のオーディエンス名を持つ DB2 ローダーが動作しない	DEF054920	オーディエンス・レベルに非 ASCII 文字が含まれている場合、コンタクト履歴とレスポンス履歴のログに対する DB2 のファイル・ベース・ローダーはサポートされていません。この問題を回避するには、オーディエンス・レベルで ASCII 文字のみが使用されていることを確認するか、ファイル・ベース・ローダーの代わりにメモリー・キャッシュを使用してください。
インタラクティブ・チャネルの配置で SiteMinder のアクセスがサポートされない	DEF054926	インタラクティブ・チャネルの配置では、SiteMinder のアクセスはサポートされていません。 Interact のランタイムの配置では、Marketing Platform データベースで明示的に作成されたユーザー ID とパスワードを使用する必要があります。
Campaign でのセッションとキャンペーンの所有者を変更すると、関連するインタラクティブ・フローチャートとインタラクティブ・セッションの動作が停止する	DEF055155	Campaign のセッションまたはキャンペーンの所有権を変更すると、関連するインタラクティブ・フローチャートとインタラクティブ・セッションが Interact で動作しなくなります。
Interact のインタラクティブ・フローチャートが Campaign のマクロのサブセットをサポートする	DEF057366、ENH11494	設計では、インタラクティブ・フローチャートは、バッチ・フローチャートで利用できるマクロのサブセットのみをサポートします (これらのみが選択可能になります)。インタラクティブ・フローチャートの「選択」または「決定」プロセス・ボックスで、サポートされていないマクロ (「AGE between 1 and 18」の `between` 演算子など) を使用する場合に、構文を確認すると「関数または操作がサポートされていません。」というエラー・メッセージが表示されます。これは予期された動作です。
このリリースに IPv6 のサポートが含まれていない	DEF061723	インターネット・プロトコル v6 (IPv6) の使用は、このリリースではサポートされていません。サポートされているのは IPv4 接続のみです。
インタラクション方法を削除した後でもキャンペーンを削除できない	DEF062936	キャンペーンが関連付けられているインタラクション方法を削除した後でも、ユーザーがキャンペーンを削除できないことがあります。この状況のときに、ac_web.log ファイルに「`DELETE` ステートメントが `REFERENCE` 制約「`iTrmtRuleInv_FK3`」と矛盾します。この矛盾は、データベース「`Automator_UC`」、テーブル「`dbo.UACI_TrmtRuleInv`」、列「`CellID`」で生じています。(`DELETE statement conflicted with the REFERENCE constraint "iTrmtRuleInv_FK3". The conflict occurred in database "Automator_UC", table "dbo.UACI_TrmtRuleInv", column 'CellID')`」のようなメッセージが含まれていることがあります。 この状況では、インタラクティブ・フローチャートが配置解除されて削除されており、方法が削除されている場合であっても、キャンペーンは配置された方法の一部であるため、そのキャンペーンに対してレポート作成に使用される履歴データが存在するので、キャンペーンを削除することはできません。この問題については、今後のリリースで解決する可能性があります。
Interact のランタイム、Interact の設計時、および Campaign を含む EAR ファイルを配置するときに、Interact の初期化が失敗する	DEF063006	Interact のランタイムと Interact の設計時を同じシステムで実行する構成では、最適なパフォーマンスが実現されません。ただし、Interact Web アプリケーションを、単一のアーカイブのすべての Web アプリケーションを含む EAR ファイルではなく、個別の WAR ファイルとして配置する場合は、最適なパフォーマンスを実現できます。 Web アプリケーションを EAR ファイルと共に配置すると、Interact のランタイムは配置時に失敗します。 このエラーを回避するには、Interact のランタイムと設計時を別のサーバーに配置するか、個別の WAR ファイルとして配置します。

問題点	問題 ID	説明
インタラクション方法をフォルダーにコピーする間に例外が表示される	DEF063013	インタラクション方法をコピーしようとしているときに、フォルダーを宛先として指定すると、「JDBC バッチ更新を実行できませんでした。ネストされた例外: org.hibernate.exception.ConstraintViolationException: JDBC バッチ更新を実行できませんでした (Could not execute JDBC batch update; nested exception is org.hibernate.exception.ConstraintViolationException: Could not execute JDBC batch update)」のようなエラー・メッセージが表示されます。本来は、コピーの宛先としてフォルダーではなくキャンペーンを指定する必要があることを示すエラーが表示されなければなりません。
Interact のアップグレード・スクリプトの実行で、コンソールに間違った情報が表示される	DEF063100	Interact のインストール済み環境を 7.x から現行バージョンにアップグレードするときに、ブートストラップ・ファイルを書き込んだ後で「ターゲット・キャンペーン・インストール・ディレクトリーを次に設定... (Setting target campaign installation directory to...)」のようなメッセージがコンソールに表示されます。本来は、このメッセージは Interact のインストール・ディレクトリーを示すべきであり、Interact のインストール・ディレクトリーを使用すると正常に続行します。この間違ったメッセージは無視できます。
「アクティブな配置」リストが毎回更新されないために、ユーザーがインタラクティブ・チャネルのバージョンを複数回配置解除できる	DEF063504	「配置」タブで、ユーザーがインタラクティブ・チャネルを配置解除するときに、現在 Interact で配置解除が完了したことを示すステータスが更新されないため、インタラクティブ・チャネルを繰り返し配置解除できます。回避策として、ステータスを手動で更新するか、別のページに移動してから「配置」タブに戻ると、更新されたステータスが表示されます。この問題については、今後のリリースで解決する予定です。
オファーのブラック・リストやホワイト・リストの作成など、テーブルで駆動されるすべての機能で大/小文字の区別がある	DEF063617	オファーのブラック・リストの作成にオーディエンス・レベルを指定するときに、指定した文字の大/小文字が、実際のオーディエンス・レベル名の定義と一致している必要があります。例えば、実際のオーディエンス・レベル名が「Customer」であるのに、「customer」というオーディエンス・レベルに基づいてオファーのブラック・リストを作成しようとすると、ブラック・リストの作成が失敗します。回避策として、オーディエンス・レベル名の定義に使用したもの同じ大/小文字を使用します。

第 5 章 既知の制約

このセクションでは、Interact 8.6.0 の既知の制約をリストします。

問題点	番号	説明
処理ルールのオファーが Interact のレポートで表示されない	該当なし	**「このテンプレートから作成したオファーをリアルタイム・インタラクションで使用できます」**を選択し、オファー・テンプレートを使用して作成したオファーを選択しないと、Interact はレポート作成のための正しいデータを収集できません。
SOAP クライアントがスレッドを解放しない	該当なし	SOAP クライアントは、ソケットを閉じる代わりに、CLOSE_WAIT の状態のままにします。これは、Axis2 SOAP クライアントの既知の問題です。詳しくは、http://issues.apache.org/jira/browse/AXIS2-2883を参照してください。
テスト実行が設計時にユーザー変数の値を変更しない	DEF030254	ユーザー変数を含むインタラクティブ・フローチャートのテスト実行を行っているときに、変数の値が設計環境 (IBM Unica Campaign) で変更されません。ランタイムでは、セッション名と値のペアを使用して、ユーザー変数の現行値を表示できます。
混成アーキテクチャーの分散キャッシュはサポートされない	DEF049665	Interact は、ランタイム環境のさまざまなインスタンスでオペレーティング・システムが混在して使用されているアーキテクチャー (Oracle を使用する UNIX のインスタンスや SQL Server を使用する Windows のインスタンスなど) で、分散キャッシュをサポートしていません。ETL 機能など、さまざまなコンポーネントをサポートするには、Interact でランタイム環境のすべてのインスタンスが同じタイプのオペレーティング・システムでなければなりません。
データ・ソースの JNDI 名が一意の必要がある	DEF049882	複数パーティションの設定では、各データ・ソースの JNDI 名は一意でなければなりません。
未加工 SQL のオプションが Interact のフローチャートでサポートされない	DEF049991	インタラクティブ・フローチャートのプロセスで、式のタイプが「SQL(ID)」または「SQL(ID+ データ)」であるカスタム・マクロを使用すると、エラー 11324 になります。
ドイツ語の文字 ß に関する既知の制約	DEF051037	ドイツ語のエスツェット文字 ß (ユニコード U+00DF) は、Interact ではサポートされていません。 • オーディエンスがこの文字を含むテーブルにマップされていると、Interact の初期化が失敗します。 • この文字を含む適格なセグメント名は、セグメントをインタラクション方法に追加すると表示が不正確になります。
`UACI_EligStat` テーブルが、`effDateBehavior>` によって除外される必要がある開始日を持つオファーをログに記録する	DEF054281	(effectiveDateBehavior + effectiveDateGracePeriodOfferAttr) から外れている開始日を持つオファーが、`UACI_EligStat` テーブルで適格なオファーとしてログに記録されています。`effectiveDateGracePeriodOfferAttr` で指定されたパラメーターは動的でないため、`effectiveDateGracePeriodOfferAttr` に「Grace_Period」属性を含め、それがオファーに含まれている場合は、このパラメーターの値がオファーで変更される場合は常に、インタラクティブ・チャネルの再配置が必要です。
Interact ランタイム・サーバーの再始動で制約の状態が失われる	DEF057040	Interact のランタイム・サーバーが何らかの理由で再始動される場合、(パフォーマンス上の理由からメモリーに保存されている) 最新の制約の状態が失われます。
複数のオファーの制約ルールが同じオファーのセットの 1 つのインタラクティブ・チャネルに追加される場合に、オファーの制約が予期したように動作しない	DEF057081	現在、Interact では、特定の配置のさまざまな時間間隔に対して独立して適用される複数の制約をサポートしていません。複数の制約に該当するオファーは、最も厳密な制約に従います。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

問題点	番号	説明
(開始日やインターバルごとのオファーの最大数などの) 制約のパラメーターを変更すると、その制約を使用したオファーの提供方法が変わる	DEF057070、DEF057076	設定を変更すると、いくつかの方法で制約の結果に影響を与える可能性があります。 • 途中でオファーの制約の開始日を変更すると、カウンターがゼロにリセットされることがあります。これは、startTime が変更されると、インターバルが再計算され、別のインターバルが発生する可能性があることにより、数がリセットされる場合があるためです。 • オファーの制約の開始日を前の日付に変更すると、「Interact の制約の状態 (Interact Constraint State)」ページの「**このインターバルの現在の数 (Current count for this interval)**」のデータが更新されません。開始日が変更されると、インターバルも再計算する必要があるため、この問題が発生します。制約の状態は、その最初の再計算の後で、正しく更新されます。 制約のパラメーターが成果に与える影響について詳しくは、「*IBM Unica Interact*ユーザー・ガイド 」を参照してください。

Interact API で getoffersForMultipleInteractionPoints 呼び出しを発行した場合に、トップレベルの属性の要件が受け入れられる属性が最大で 1 つである	DEF057693	例えば、インタラクティブ・チャネルでオファーを設定し、OfferType の値として「Bank Account」と「Insurance」を持つオファー属性を使用して getoffersForMultipleInteractionPoints() API 呼び出しを実行するとします。
		
		適格なセグメントでは、3 つのオファーが割り当てられます。2 つのオファーが「Bank Account」というオファー・タイプを持ち、1 つのオファーが「Insurance」というオファー・タイプを持ちます。次の getoffersForMultipleInteractionPoints() API 呼び出しは、*不正確* な結果になります。
		`{DIP1,3,1,(2,Offertype=Bank account|string)`
		`(1,Offertype=Insurance|string)}`
		
		この呼び出しは、「Bank Account」というオファー・タイプを持つ 2 つのオファーしか返しません。
		
		次の呼び出しは、必要な出力を正しく返します。
		`{DIP1,3,1,(3,,(2,Offertype=Bank account|string)`
		`(1,Offertype=Inssurance|string))}`

インタラクティブ・フローチャートに未構成のプロセスが含まれる場合でも配置が完了する	DEF030956	インタラクティブ・フローチャートのプロセスを未構成の状態にする構成の変更を行い、過去にインタラクティブ・フローチャートを配置している場合に、インタラクティブ・フローチャートが配置されます。未構成のプロセスを持つインタラクティブ・フローチャートは、配置されるべきではありません。
Marketing Platform のサイレント・モードでのインストールの後で、既存のインストーラーのプロパティー・ファイルが削除される	DEF042448	以前のインストールが UI モードで行われている場合に、サイレント・モードで Platform をインストールすると、`installer.properties` ファイルと `installer_uep.properties` ファイルが削除されます。
GUI から保存しようとしたときに WebConnector がデフォルトの構成を行わない	DEF052958	WebConnector は、GUI から保存しようとしたときに、フィールドにデフォルト値を設定しません。
2 つのスキーマが存在するときに、テスト実行が最初のスキーマからの結果を表示する	DEF054970、DEF055064	複数のスキーマが存在するときに、テスト実行の結果は、アルファベット順で最初に来るスキーマからのものになります。
メール・リスト・プロセスが構成されるとフローチャートの検証が失敗する	DEF055021	メール・リスト・プロセスを持つバッチ・フローチャートから作成されたフローチャート・テンプレートがインタラクティブ・フローチャートに追加された場合、「フローチャートの検証」による検証が失敗します。「フローチャートの検証」に、「フローチャートの構成にエラーは検出されませんでした。」と表示されます。

問題点	番号	説明
モデルから学習属性を削除すると、その属性の履歴データが削除される	DEF058996	これは、学習機能の自己メンテナンスである、不要なデータの消去の一部として発生します。削除された属性をもう一度追加する状況で、学習システムは (古い履歴データを使用するのではなく) その属性についてもう一度最初から学習します。属性の履歴をシステムに削除させる代わりに保持する場合は、履歴をグローバル設定に追加して、その属性を使用しない学習モデルを作成することでその履歴の使用を回避し、インタラクティブ・チャネル・レベルで割り当てます。

第 6 章 以前のリリースの新機能

このセクションでは、IBM Unica Interact の以前の 8.x リリースの変更を、参照目的で記載しています。これらの機能の使用の詳細な手順については、Interact の資料を参照してください。

バージョン 8.5.0 の新機能と変更

Campaign のバッチ・フローチャートに追加された「インタラクト・リスト」プロセス・ボックス

新しいプロセス・ボックスが Campaign のバッチ・フローチャートに追加され、Interact ランタイム・サーバーによって提供されるオファー候補を含むテーブルをユーザーが簡単に定義できるようになりました。「インタラクト・リスト」という新しいプロセス・ボックスは、「コール・リスト」プロセス・ボックスまたは「メール・リスト」プロセス・ボックスと似た方法で動作します。バッチ・フローチャートで「インタラクト・リスト」プロセス・ボックスを使用して、ランタイム・サーバーからお客様に提供するオファーを決定します。これには以下のような選択肢があります。

- 個人レベル (「ブラック・リスト」) でのオファー抑止
- 個人レベル (「ホワイト・リスト」またはスコア・オーバーライド) でのオファー割り当て
- オーディエンス・レベル (グローバル・オファーまたはデフォルト・オファー) でのオファー割り当て
- カスタム SQL 照会によるオファー割り当て

インタラクティブ・キャンペーンをデプロイすると、ランタイム・サーバーはこのプロセスから出力にアクセスします。バッチ・フローチャートには「インタラクト・リスト」プロセス・ボックスの複数のインスタンスが含まれている可能性があることに注意してください。(ENH10375)

拡張された学習 (ENH10650、ENH10651、ENH10652、ENH10654)

Interact の学習機能が、次の方法で拡張されました。

- Interact に既に存在するグローバル学習モデルの他に、学習を有効にして、学習属性をインタラクティブ・チャネル、ゾーン、およびルール・グループのレベルでカスタマイズできます。これらの各レベルは、カスタム学習モデルの独自のセットを持つことができます。この機能は、「自習」とも呼ばれます。学習のグローバル設定は、グローバル、インタラクティブ・チャネル、ゾーン、ルール・グループの順序で継承され、後続の各レベルに、継承された設定を追加またはオーバーライドするオプションがあります。
- 学習の監視モード。

  これまでは、学習が特に有効になっていないと、Interact が学習の統計情報を収集することはできませんでした。このリリース以降、学習の監視モードによって、

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

オファーの調停に Interact の学習を使用していない場合でも、事前定義された (グローバル・モデルを含む) 学習モデルに基づいて、 Interact が学習の統計情報を収集することができるようになりました。

- 自習の学習レポート(ENH10653)

  新しいレポートが追加され、前述の新しい自習モデルをサポートするようになりました。現在、マーケティング担当者は、学習モデル・レポート分析レポートを Interact 設計時間環境で実行して、指定された期間の 2 つの学習モデルのパフォーマンスを比較できるようになりました。

Web コネクター (ENH09370)

Web コネクターによって、リアルタイム・オファーのカスタマイズのために Web ページでの Interact への呼び出しを有効化でき、低レベルの Java または SOAP の Interact サーバーへの呼び出しを実装する必要がありません。 Web コネクターは、オファー・アービトレーション、プレゼンテーション、およびコンタクト/レスポンス履歴を、次の 2 つの主要なプロセスによって管理します。1 つはページのロードで、カスタマイズされたオファーがある Web ページを提供し、もう 1 つはオファーの閲覧で、オファーの閲覧を収集して、指定されたランディング・ページにリダイレクトします。

Web ページの読み込み時に、埋め込まれた JavaScript コードが Web コネクターへのリンクを生成し、Interact API を使用してカスタマイズされたオファー・リストを返し、次に必要に応じて HTML 形式などのマークアップの断片として、Web ページに追加されます。ユーザーがリンクをクリックすると、Interact を使用する Web コネクターに渡され、適切なターゲット URL が判断されてユーザーがそこにリダイレクトされます。

Message Connector (ENH10655、ENH10656、ENH10657)

Interact Message Connector により、電子メール (またはその他の電子的なメディア) のオープン時と閲覧時に、オファーのカスタマイズのために Interact を呼び出し、<img> タグ (オープン時に電子メールのカスタマイズされたオファーを取得する) と <href> タグ (閲覧を収集してユーザーをランディング・ページにリダイレクトする) を通じてオファー・アービトレーションとコンタクト/レスポンス履歴を判断します。

その他の制約 (ENH10646、ENH10647)

オファー制約機能によって、組織はオファーの印象の配布を制限して管理し、オファーまたはオファーのコレクションを定義された期間に提示できる回数を制限できます。例えば、事前定義された印象の割り当て量 (1 日に一定数の印象など) に達した後にオファーを抑制したり、一定期間にオファーの印象を均等に配信したりすることができます。

オファーの非重複化 (ENH10649)

オファーの非重複化ポリシーによって、Interact が複数のインタラクション・ポイントの要求からの重複したオファーを削除するときの効率が向上します。これを達成するために、新しい呼び出しが `getOffersForMultipleInteractionPoints` という InteractAPI に追加され、指定されたインタラクション・ポイントのリストを測定す

るオファーのリストを取得します。また、API 呼び出しは、Interact サーバーが返されたリストへの非重複化を適用する必要があるかどうかも指定します。

Interact でのパフォーマンスの拡張

すべての IBM Unica Interact で、パフォーマンスの拡張が多数実装され、その中には次の領域のいくつかが含まれます。

- コンタクト履歴のセッションのキャッシュや、その他のファイルベースのキャッシュの書き込み (ENH10959、DEF059773、DEF059774)
- ETL クエリー内の重複するレスポンス履歴のエントリーの処理の効率化 (DEF055886)
- 学習でのメモリー処理の向上 (DEF059772)
- 一般的な学習の集計処理の効率化 (DEF057236)
- OfferBySQL パフォーマンスの拡張 (DEF055126)

バージョン 8.2.0 の新機能と変更

オファーのマーケットプレイスの拡張

Interact 8.2.0 では、多数のオファーの処理をサポートする次の拡張が行われています。

- 必要なオファー候補のセットを取得するために SQL クエリーを使用する機能。OffersBySQL によって、実行時にオファー・リストまたはオファーが書き込まれた 1 つ以上のテーブルでクエリーを実行するようユーザーが SQL を構成できます。
- オファー候補の配置のための新しいコマンド・ライン・ツール。キャンペーンのバッチ・フローチャートを定期的に実行するよう構成できます。フローチャートの実行が完了すると、OffersBySQL テーブルのオファーの配置を初期化するためのトリガーを呼び出すことができます。

OffersBySQL 機能の使用方法

OffersBySQL 機能を使用する基本的なステップは、次のとおりです。

1. フォルダーやオファー・リストのオファーを編成します。
2. キャンペーンのバッチ機能、または外部 ETL プロセスを使用します。
3. `UACI_ICBatchOffers` テーブルに、オファー候補の最終リストのデータを挿入します。
4. トリガーを使用して、インタラクティブ・チャネルを配置します。
5. ランタイム側では、次のステップを実行します。

   構成 `Interact/profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL` の下で SQL テンプレートを作成することにより、SQL が呼び出されるよう構成します。

   - SQL には、訪問者のセッション・データ (プロファイル) の一部になっている変数名への参照が含まれている場合があります。例えば、「`select * from MyOffers where category = ${preferredCategory}`」は `preferredCategory` という名前の変数が含まれているセッションに依存します。

- SQL には、上記のステップ 2 で生成されたオファー・テーブルにクエリーを実行するよう構成される必要があります。

SQL の実行は、offersBySQL 機能が有効になっている場合に、startSession の各呼び出しで行われます。

getOffers の各呼び出しで実行を発生させるために、postEvent を呼び出してから、パラメーター UACIQueryOffersBySQL を 1 に設定して getOffers を呼び出すことがあります。getOffers の呼び出し (および後続のすべての getOffers) が、SQL を実行します。

別の SQL を実行するには、パラメーター UACIOffersBySQLTemplate の値を、希望の SQL テンプレートに設定します。

コマンド・ライン・ツールについて

コマンド・ライン・ツール (runDeployment.sh/.bat) は、Interact の設計時間インストール・ディレクトリー tools/deployment の下にあります。スクリプトの使用方法は簡単です。各インタラクティブ・チャネル/サーバー・グループの配置の組み合わせに runDeployment <propertiesFile> を使用します。

tools/deployment フォルダーで入手できる deployment.properties というサンプル・プロパティー・ファイルで、指定可能なすべてのパラメーターについて概説しています。

新規構成パラメーター

次の新しい構成パラメーターが Interact 8.2 で導入され、OffersBySQL 機能をサポートします。

表 1. 新しい設計時構成パラメーター

パス名	説明	デフォルト
Interact/whitelist/<audienceLevel>/offersBySql/defaultCellCode	OffersBySQL テーブル内のセル・コード列に NULL 値が入っている (または、セル・コード列が完全に存在しない) 任意のオファーに使用する、デフォルト・セル・コード。この値はセル・コードとして有効な値にする必要があります。	なし

表 2. 新しいランタイム構成パラメーター

パス名	説明	デフォルト
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/enableOffersByRawSQL	このオーディエンス・レベルに対して offersBySQLoffersBySQL 機能を有効にするブール値のフラグ。	FALSE

表 2. 新しいランタイム構成パラメーター (続き)

パス名	説明	デフォルト
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offersBy Raw SQL/cacheSize	キャッシュのサイズ。OfferBySQL クエリーの結果の保管に使用されます。注: クエリーの結果がほとんどのセッションに対して一意の場合、キャッシュを使用すると悪い影響が出る可能性があります。	-1 (オフ)
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offersBy Raw SQL/cacheLifeInMinutes	キャッシュの内容が古くなるのを避けるために、システムがキャッシュを消去するまでの分数。	-1 (オフ)
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offersBy Raw SQL/defaultSQLTemplate	使用する SQL テンプレートの名前 (API で指定されていない場合)。	なし
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offersBy Raw SQL/<SQLTemplate>/name	SQL テンプレートの名前。	なし

新しい距離マクロ

IBM Unica Campaign と IBM Unica Interact の両方で利用できる新しい距離マクロは、2 つの地理的な地点の、緯度および経度の座標の 2 つのペアが提供されている場合に、その間の距離の計算をサポートします。詳しくは、「*IBM Unica IBM Unica Marketing のマクロ ユーザー・ガイド* 」を参照してください。

ステージング・テーブルからレコードを取得する場合に JDBC fetchSize を設定する機能

新しい構成パラメーターの `fetchSize` が追加され、ステージング・テーブルからレコードを取得するときに JDBC fetchSize を設定できるようになりました。

Marketing Platform の構成マネージャーのパラメーターのパスは、`Affinium | Campaign | partitions | partition1 | Interact | contactAndResponseHistTracking | fetchSize` です。

8.2 のインストールでは、このパラメーターが構成に自動的に追加されます。

特に Oracle データベースでは、この設定は、ネットワークの往復ごとに JDBC が取得する必要があるレコード数に合わせて調整してください。100K 以上の大きな規模の場合には、10000 で試行してください。この値は大きくしすぎないように注意してください。使用する値が大きすぎると、メモリーの使用量に影響するのに対し、効果はほとんどありません。

Interact のコンタクト履歴とレスポンス履歴の ETL スクリプトの拡張

Interact 8.2.0 では、次の拡張が行われました。

1. 新しい構成プロパティー `maxJDBCFetchBatchSize` を使用して、ETL に対して大きなバッチ・サイズを指定できる機能。

CH/RH レコードは、Interact ランタイム・データ・ソースから、`maxJDBCFetchChunkSize` プロパティーで指定したサイズのチャンクで読み取られ、Campaignのデータ・ソースに書き込まれます。

例えば、1 日に 250 万個のコンタクト履歴レコードを処理するには、`maxJDBCFetchBatchSize` を 250 万より大きな数に設定して、1 日分のレコードがすべて処理されるようにする必要があります。`maxJDBCFetchChunkSize` と `maxJDBCInsertBatchSize` は、それぞれ 50,000 と 10,000 といった、より小さい値に設定する必要があります。翌日のレコードの一部も処理されますが、翌日まで保持されます。

2. ETL の実行をスケジュール設定する機能

   ETL を 1 日 1 回、時間枠を指定して実行する機能を持つオプションが利用できるようになりました。ETL は、指定された時間間隔の中で開始され、最大で `maxJDBCFetchBatchSize` を使用して指定された数のレコードを処理します。

3. プロセスのコンタクト履歴とレスポンス履歴のレコードを保持するオプション

   プロセスのコンタクト履歴とレスポンス履歴のレコードを保持するオプションを利用できるようになりました。

4. ETL の完了通知

   ETL が完了したときに実行するスクリプトへの絶対パスを指定できるようになりました。4 つの引数 (開始時刻、終了時刻、処理された CH レコードの合計数、および処理された RH レコードの合計数) が完了通知スクリプトに渡されます。開始時刻と終了時刻は、1970 年から経過したミリ秒数を表す数値です。

注: ETL の実行時間が 24 時間を超過し、次の日の開始時間にかかる場合は、その日の実行はスキップされ、翌日のスケジュールされている時間に実行されます。例えば、ETL が 午前 1 時から午前 3 時の間に実行されるように構成されている場合に、月曜日の午前 1 時に処理が開始され、火曜日の午前 2 時に完了すると、本来火曜日の午前 1 時にスケジュールされていた次の実行はスキップされ、次回の ETL は水曜日の午前 1 時に開始されます。

注: ETL スケジューリングは、夏時間調整による変更には対応していません。例えば、午前 1 時から午前 3 時までの間に実行するようにスケジュールされている ETL は、夏時間調整による変更があると、午前 0 時または午前 2 時に実行される可能性があります。

オファーの開始日が Interact で考慮されるようになる

2 つの新しい構成パラメーターが追加され、オファーがある開始日の動作を管理できるようになりました。どちらも Marketing Platform の構成マネージャーの次のパスにあります。

```
Affinium > Interact > offerServing
```

表 3. 開始日の変更の要約

パラメーター名	説明
`effectiveDateBehavior`	このパラメーターは、すべてのオファーに影響を与えるグローバル構成です。デフォルトでは 0 に設定されています (開始日を使用します)。 指定できる値は以下のとおりです。 • `-1` -- 開始日を無視します (この拡張の前の動作と同等です)。 • `0` -- 開始日を使用します (デフォルト) • `>0` -- 猶予期間 (現在の日付に追加された日数。開始日が計算された日付 (現在の日付 + 猶予期間) より大きい場合は、オファーがフィルタリングで除外されます。)
`effectiveDateGracePeriodOfferAttr`	このパラメーターによって、テンプレートから作成された各オファーが、異なる猶予期間の値を持つことができます。オファーを提供できる開始日までの日数を設定する、カスタム・オファー属性にマップします。 値はオファー・テンプレートで作成されたカスタム属性の名前であり、デフォルトでは空白になるか、値が指定されません。 `effectiveDateGracePeriodOfferAttr` が設定されていると、Interact は各オファーで指定された属性を探します。指定された属性がオファーに含まれていると、Interact は値を読み取り、猶予期間を判断します。 オファーに指定された属性が含まれていない、または effectiveDateGracePeriodOfferAttr が設定されていないと、 Interact は `effectiveDateBehavior` の設定を使用します。 `effectiveDateGracePeriodOfferAttr` を設定するには、次のようにします。 1. Campaign でカスタム・オファー属性を作成します。 2. `effectiveDateGracePeriodOfferAttr` の値を新しいカスタム・オファー属性の名前に設定します。 3. カスタム・オファー属性を、猶予期間を指定する各オファー・テンプレートに割り当てます。 4. オファー・テンプレートから作成されたオファーで、現在の日付に追加される日数にこの属性を設定して、猶予期間として許可します。

第 7 章 IBM Unica Interact Reports Package について

Interact Reports Package は、インタラクティブ・チャネルやその他の Interact 固有のメトリックに基づいて、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスをトラッキングするために使用できるレポートのスキーマを提供します。

Reports Package には、次の機能が含まれています。

- インストール中に Marketing Platform に登録されるスキーマとスキーマ・テンプレート。製品のレポート作成スキーマを表す属性とメトリックについて記述し、次のものが含まれます。
  - レポート作成スキーマの基本となる 5 つの基本スキーマ (カスタム属性なし)
  - 新しいスキーマの作成に使用できる 1 つのスキーマ・テンプレート
- IBM Cognos® BI Server に配置される IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos のモデルとレポートについて解説する参考資料

  Report Package の参考資料は、PDF 版の製品資料がポストされる文書サーバーでは入手できなくなりました。 Marketing Platform がインストールされているマシンにレポート作成スキーマをインストールすると、Report Package の参考資料にアクセスできます。参考資料は、Report Package のインストール済み環境にある、`Cognos10` ディレクトリーのサブディレクトリーにあります。

Interact レポートは、以下の 3 つのデータ・ソースからデータを取得します。

- Interact システム・テーブル (設計環境)
- Interact 学習データベース
- Interact ランタイム・データベース

レポート作成スキーマ

スキーマは以下のとおりです。

- Interact ビューは、Interact 設計環境のシステム・テーブルの標準属性ビューを提供します (キャンペーン、オファー、セル、処理ルール・インベントリーなど)。
- Interact パフォーマンスは、オファー、セル、セグメント、インタラクション・ポイントといったその他のディメンションの組み合わせで、ある期間 (時間/過去 24 時間、または日/過去 7 日間) でのキャンペーンまたはインタラクティブ・チャネルのレベルで開始されたパフォーマンスの測定に使用されます。メトリックはコンタクト・メトリックとレスポンス・メトリックに分けられます。
- 配置履歴は、インタラクティブ・チャネルの配置に関する情報を提供するレポートによって使用されます。
- Interact ランタイム・ビューは、ランタイム・システム・テーブルから資格統計、デフォルト値の統計、およびイベント・アクティビティーを取得するレポートによって使用されます。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

– 資格統計は、ディメンション、インタラクティブ・チャネル、インタラクション・ポイント、オファー、セル、および時刻というディメンションによって集計されます。

  デフォルト値の統計は、インタラクティブ・チャネル、インタラクション・ポイント、およびセグメントというディメンションによって集計されます。

  イベント・アクティビティーは、時間と日によって集計されます。

- Interact ラーニング・ビューは、Interact 学習データベースからデータを取得するレポートによって使用されます。

テンプレート

パッケージには、Interact パフォーマンス・スキーマのテンプレートが含まれるため、追加のオーディエンス・レベルに対して追加のパフォーマンス・レポート・スキーマを作成できます。

レポート

キャンペーンの「分析」セクションとキャンペーンの「分析」タブから利用可能なレポートは、次のとおりです。

- チャネル配置履歴
- 時間経過に伴う対話式セルの実績
- オファー別の対話式セル実績
- 時間経過に伴う対話式オファーの実績
- セル別の対話式オファー実績
- 対話式オファー学習の詳細
- 対話式セルの上昇分析
- 時間経過に伴うチャネル学習モデルの実績
- オファー別のゾーン実績レポート

インタラクティブ・チャネルの「分析」タブから利用できるレポートは、次のとおりです。

- チャネル配置履歴
- チャネル・イベント・アクティビティー・サマリー
- チャネルインタラクション・ポイント実績サマリー
- 対話式セグメントのリスト分析
- 時間経過に伴うチャネル学習モデルの実績
- オファー別のゾーン実績レポート

利用可能なダッシュボード・レポートは、次のとおりです。

- インタラクション・ポイント実績

IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ**」>「**バージョン情報**」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm) を参照してください。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright IBM Corp. 2004, 2012

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『www.ibm.com/legal/copytrade.shtml』 をご覧ください。

Printed in Japan

日本アイ･ビー･エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21